

わたしの弟

小 四

わたしの弟は、生まれつきダウン
しょうです。弟は今、四才なのに言葉
がちやんとしゃべれません。例えばバ
イクを、

「バイ。」
と言ってしまいます。

ある日、お母さんの、
「弟に、一つだけでも得意なことをや
らせてあげたいな。」

という小さな声が私の耳に入りました。
わたしは弟の得意なことを考えまし
た。あつと思いついたのは、英語です。
理由は、弟が動画サイトで英語の歌を

聞いて、よくまねをしているからです。
あと、わたしと、もう一人の弟も英語
を習っているからです。

わたしはお母さんに考えたことを話
してみました。お母さんは、

「ピアノもいいかもね。ダウンしょう
の人は音楽が大好きだからね。こせ
いがあつて、おもしろいでしょ。」

と言いました。わたしはその話を聞い
て、「そうだね。弟が何をするかは、弟
が得意なこと、やりたいことを弟が自
分で決めた方がいいよね。」と心の中
で思いました。でも、「それなら言葉を
しゃべれるようになるのが先だよね。」
と思い、弟と練習しました。

そして何日かたつたとき、ほいく園
にむかえに行くと、なんと弟が自分か

ら手をつなぎ、階だんをおりはじめました。すると、

「一、二、三、四、五……。」

と言ったのです。そのとき、わたしは、とても、とてもうれしい気持ちでした。

「ここまで、できたんだね。」

と言って、家に帰りました。

お母さんも家に帰ってきました。

「お母さん、あのね、弟が一、二、三、

四って言えるようになったんだよ。」

「それはすごいね。」

わたしは、お母さんに言うときもうれしくて、声ははずんでいました。わたしは弟に声をかけました。

「よかったね。」

それから何週間かたちまりました。弟は、年少から進級し年中になりました。弟

の友達は、弟が来ると、

「おはよう。」

と明るく言ってくれます。わたしは、「弟は幸せだな。」と思います。これからも、年中になった弟をおうえんしていききたいです。